

報恩講 御案内

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、この先、世の中がどうなるのか心配が付きません。

皆さまは、いかがお過ごしでしょうか。

さて、勝福寺の報恩講ですが、一月十一日に、再度、常任委員会で話し合いを行いました。その中で一番大きな論点は、報恩講は不要不急の行事かどうか、ということでした。

まず報恩講は「不急」、つまり今でなくとも良いのではないか、ということについてですが、新型コロナウイルスは今しばらくは収束しそうもないので、延期しても厳しい条件は一緒だと判断しました。

次に、報恩講は「不要」でないかということについてですが、煩惱いっばいでわがまま勝手な私たちだからこそ、報恩講を勤めることが大切であることを確認しました。

私たちの心は、今ここに生きていることを当たり前とし、文句は言っても、その有り難さを感じ謝する口をもっていません。ですから、真宗門徒は、御恩いっばいの身であることを教えて下さった親鸞聖人のご命日に報恩講を勤めることをもって一年の区切りとしてきました。

赤ちゃんを育てた時を想い出してみてください。「ありがとう」と「ごめんなさい」は、繰りかえし繰りかえし教えましたね。「ありがとう」は感謝です。「ごめんなさい」は懺悔です。この二つは一度覚えたら忘れぬかという、そうではありません。日に日に、新たに、心に刻み込んでいかねば、すぐ消えてしまいます。ですから、報恩講を勤めることで、地獄・餓鬼・畜生の心に落ち込まず、お浄土へ向かっての新鮮で喜びにあふれた人生にしていたたくのです。

このようなことを話し合いの中で確認した上で、今年度の報恩講は、感染対策をしっかりとやった上で、規模を縮小して勤修しようということになりました。

以上が、新型コロナウイルスが感染拡大するなかでも、あえて報恩講を勤修することに決定した理由です。皆さまのご理解をお願いもうしあげます。

最後になりました、裏面にあるように、当日は感染対策をしっかりとっておきますので、体調のよい方は参詣して報恩講におあいくださるよう、御案内申し上げます。

(裏面へ)

感染対策

密にならぬよう、参詣日を地区別にする。

勤行・法話を含めて一時間半に収まるようにする。

当番は無しとし、お斎は取り止める。

体温の検温、手指消毒、マスク、換気を徹底する。

事前準備（お華束つき・お磨き）については規模を縮小し、少人数（有志）で行う。

法要次第

日時 一月二十三日（土） 午後一時半～三時

* 参詣地区 大字四日市地区の皆さま

一月二十四日（日） 午後一時半～三時

* 参詣地区 大字四日市以外の皆さま

* 地区割りは目安です。都合が悪い時は、違う日でも結構です。

勤行 正信偈・念仏・和讃（同朋奉讃式）

法話 坊守（腹話術法話）と 住職

講題 「報恩講を勤めるころ」

二〇二一年一月十三日

勝福寺住職 藤谷知道

勝福寺総代長 渡辺和義

勝福寺総代会・常任委員一同